

## ◆第4学年 学習指導案◆ 「いろいろな音の重なりを感じ取ろう」

教材：『打楽器の音楽』  
『茶色の小びん』

豊島区立西巢鴨小学校  
第4学年2組 29名

### 1 題材の目標

- (1) 曲想及びその変化と、音色や音の重なりなどの音楽の構造との関わりについて、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、設定された条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能や、音楽の縦と横との関係を用いて音楽をつくる技能や、互いの楽器の音や副次的な旋律を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける。
- (2) 音色や旋律、音の重なり、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して音楽づくりの発想を得たり、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったり、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもったりする。
- (3) 楽器の音色や音の重なりを生かして音楽をつくったり表現したりする学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりや器楽の学習活動に取り組み、いろいろな音の響きに親しむ。

### 2 題材について

#### (1) 研究主題との関連

##### ①児童の実態から

第3学年『パフ』の学習では、リコーダーや鉄琴、低音楽器など、異なる音色の楽器が重なり合う響きを感じ取りながら、互いの音を聴き合って演奏する学習を行った。第4学年『楽しいマーチ』の学習では、手拍子のリズムと旋律を重ねて、拍にのって演奏する楽しさを味わった。その中で、曲想の変化と旋律や楽器の音色や響き、演奏の仕方との関わりを考えながら、自分で楽器を選び演奏する活動を経験した。『陽気な船長』では、旋律の特徴を捉え、スタッカートやレガートなどが生み出すリコーダーの表現のよさや面白さを感じ取りながら、タンギングや息の使い方に気を付けて演奏した。

本題材では、楽器のもつ固有の音色や響きの特性を生かして、いろいろな楽器の音が重なる響きを感じ取りながらグループで音楽をつくったり、互いの音を聴き合って合奏したりする学習に取り組む。これらの学習過程の中で、自分で聴き取った音色や響きを可視化し自分の考えとして表現できるようにしたり、同じ楽器を選んだ友達と技能を高めたりする時間を充実させる。そして、それぞれの楽器の音色や音の重なりによる響きのよさに気付きながら、自分たちならではの音楽をつくったり、各パートの楽器の音色や響きの重なりを聴き取り、そのよさや美しさを感じ取って、友達と合奏したりする楽しさを十分に味わえるようにしていきたい。

##### ②題材の意義から

本題材の音楽づくりの学習過程においては、まず、素材の異なる15種類の打楽器の音色や響きの違いを聴き取ったり、音の出し方や演奏の仕方を試したりしながら、それぞれの楽器のよさを感じ取る。この活動は低学年での打楽器の既習内容を広げ深めることとなる。さらにその音色や響きの組合せを考え、音楽の縦と横との関係を可視化しながらグループで打楽器の音楽をつくり表現していく。このように友達と自

分たちの思いを生かしながら音楽をつくる中で感じ取った楽器の音色や響き、音の重なりや音楽の縦と横との関係が生み出すよさや面白さを、次の合奏での学習に生かしていく。

合奏の学習においては、リズムや旋律の特徴などの既習内容を生かしながら、各パートの特徴を捉え、曲想との関わりについて考えるようにする。合奏で担当する楽器については、自分で選択できるようにすることで、既習の内容を生かしながら、児童が主体的に取り組めるようにする。さらに、担当する楽器をどのように演奏するかについて試行錯誤する中で、同じパートを担当する友達と協働しながら自分の考えを確認したり広げたり更新したりして、思いや意図を表現につなげられるようにする。

音を重ねて演奏する中で、それぞれの楽器の音色や響きの重なりを聴き取り、学習してきた各パートの特徴や他のパートとの関わり方による音楽のよさや面白さについて実感できるようにする。

本題材でいろいろな楽器の音の重なりを実感しながら、音楽づくりや器楽合奏を楽しく経験することで、高学年では、曲想の変化にふさわしい演奏の仕方を工夫して表現する学習に期待や希望をもち、主体的に取り組めるようにしたい。

## (2) 学習指導要領との関連

【A表現：器楽】(2) ア・イ(ア)・ウ(イ)(ウ)

【A表現：音楽づくり】(3) ア(ア)(イ)・イ(ア)(イ)・ウ(ア)(イ)

本題材において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

ア ア 音色、旋律、音の重なり

イ 音楽の縦と横との関係

## 3 教材について

### ● 『打楽器の音楽』

図形のカードを楽譜に見立てて即興的に音で表したり、カードを組み合わせてまとまりのある音楽に構成したりすることを通して、楽器の音色や音の重なりを生かした音楽づくりをするための教材である。木・金属・皮など、素材の異なる楽器を扱うことで、響きが長い音や短い音、固い音や柔らかい音などの音色の特徴の違いに気づき、様々な音の出し方について考えることができる。

図形カードで音楽の縦と横との関係を可視化し、つくる音楽の全体像を確認しながら友達と音楽をつくることができ、児童が打楽器の音色や音が重なった響きを感じ取りながら音楽をつくり、表現することに取り組みやすいと考える。

以下の4つの条件や手順で音楽づくりを行う。

- ①楽器の音色や響きを聴き取り、以下の楽器の中から、グループで3つの楽器の組合せを決める。グループは3人組、または4人組とする。

〔皮：ボンゴ、タンブリン、コンガ、フレームドラム、小太鼓〕

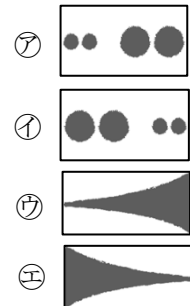
〔金属：トライアングル、すず、シンバル、鉄琴、グロッケン〕

〔木：クラベス、ウッドブロック、マラカス、ギロ、木琴〕

- ②4分の4拍子の音楽で、右図に示した図形カードは1枚で1小節分のリズムと捉える。

- ③4種類の図形カードを組み合わせて使い、「始め」「中」「終わり」の10小節の音楽をつくる。

- ④楽器の音色や響き、音の重なりを生かし、1つずつの楽器で演奏する部分と重ねて演奏する部分をつくるようにする。



●『茶色の小びん』 美龍明子 日本語詞／ジョセフ ウィナー 作曲／浦田健次郎 編曲  
出典 小学生の音楽4 教育芸術社

●映像『茶色の小びん』（東京音楽大学シンフォニック ウインド アンサンブルによる演奏）

原曲はジョセフ ウィナー（アメリカ）が1869年に発表した「The Little Brown Jug」である。日本では、CMに使用されており、児童にも馴染みのある音楽である。

A(a4+a'4)+B(b4+b'4)の二部形式。主旋律、副次的な旋律、和音、低音の4つのパートに分かれてアレンジされており、各パートの役割も明確である。児童がリズム、音符の長さ、休符、旋律の上がり下がりなどの特徴を捉え、楽器の音色や響きに気を付けながら各パートの演奏の仕方を工夫していく学習を展開しやすい。児童が経験したことのある楽器（鍵盤ハーモニカ、リコーダー、木琴、鉄琴、グロッケン、キーボード）の中で、それぞれのパートの特徴に合った楽器を選んで取り組むことで主体的に学習に向かい、演奏する楽しさを味わいながら、音の重なりを感じ取って合奏をつくりあげていくことに適している。合奏の学習をした後に、豊島区にある東京音楽大学シンフォニック ウインド アンサンブルによる演奏の動画を鑑賞する。地域の大学生との交流を通して、児童が演奏への憧れの気持ちをもったり、スウィング・ジャズのアレンジの音楽を聴き、音楽への世界観を広げたりすることのできる機会としたい。

## 4 研究主題に迫るための手立て

### 視点1 課題意識をもち、解決に向かっていく主体的な学びの実現

#### ①指導の個別化、学習の個性化

- ・楽器の音色やパートの特徴と曲想との関わりへの気付きを手掛かりとして、児童が演奏したいと思う楽器やパートを選択できるようにし、児童それぞれが自分の課題に取り組めるようにする。
- ・一人一人が自分の課題を考え、表現できる思考ツール「演奏の仕方ビンゴカード」（以下「ビンゴカード」と表記する。）を活用し、個々の学習の進捗に合わせて書き入れ、自己評価できるようにする。
- ・毎時間のワークシートに記入した内容を教師が確認し、次時に個別の課題に対し指導、支援できるようにする。

#### ②ねらいと振り返りの連動による学びの探求

- ・学習のねらいや活動の流れに沿って、児童が学んだことを記録したり更新したりできるワークシート等を活用する。一つ一つの課題や学習の振り返りの時間を確保し共有することで、児童が学んだことを生かし調整しながら、主体的に次の学びへ向かえるようにする。

### 視点2 考えや表現を広げ深めていく対話的な活動の充実

#### ①考えを広げ深める場の設定

- ・音楽づくりでは、グループごとに考えた楽器の音色と響きの特徴や、つくった音楽の構成などを可視化し、互いに見合う場面を設定することで、児童が音色や響きを生かした楽器の組合せや構成について、自分たちの考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ・合奏では、一人一人が考えた楽器の演奏の仕方をビンゴカードに書き入れ、それを基にグループで互いの思いや意図を共有する場や、聴き合ったりアドバイスし合ったりしながら演奏する場を設定する。グループ活動後の演奏でビンゴカードの内容（演奏の仕方の工夫）が増え、友達との関わりの中で児童の考えや表現が広がっていくようにする。

## ②協働する意味や目的の共有化

- ・合奏では、担当する楽器を旋律の動きとリズムに気を付けて演奏の技能を定着する活動、パートの特徴や音の重なりと曲想とを関わらせながら演奏の仕方を工夫する活動をグループで展開する。それぞれの活動の始めに、どのような姿、どのような演奏を目指すのかを共有する場面を大切にす。さらに活動の途中や活動後に教師が学びを価値付けることで、考えや表現が広がり深まっていることを児童が実感できるようにする。

### 視点3 学びを自覚し、積み重ねつなげていく題材構成の工夫

#### ① 身に付ける内容の焦点化と明確化

- ・題材のねらいを「いろいろな音の重なり」とすることにより、音色や響きと演奏の仕方との関わりについての既習の学習を生かし、題材を通して、それらの重なり合う音の響きや旋律の重なりよさや面白さを感じ取る学習を軸として、児童が学びを積み重ねていくことができるようにする。

#### ② 音楽的な見方・考え方の働かせ方や深化・更新

- ・題材を通して、図形カードや楽譜から見つけられること、演奏してみて気付いたこと、友達と演奏したり話し合ったりしてできたこと、分かったことなどを振り返る場を意図的に設ける。今、何を学んでいるのか、何と何が関連付けられているのかについて教師が価値付けることにより、児童が自分の成長を実感し、「もっと演奏したい」「もっと楽器を増やして合奏したい」など、次の学習への期待をもてるようにする。
- ・題材のまとめの場面で、地域の音楽大学の演奏を聴くことで、多くの気付きや自分の感情の動きなど、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽への世界観を広げられるようにする。

## 5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①[知] 打楽器の音色や響きなどの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付いている。(づ)</p> <p>②[技] 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択して表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。(づ)</p> <p>③[知] 音のつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付いている。(づ)</p> <p>④[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係を用いて音楽をつくる技能を身に付けて音</p>	<p>[思]①音色、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ている。(づ)</p> <p>[思]②音色、音の重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、いろいろな音の組合せを試し、音を音楽へ構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(づ)</p>	<p>[態]①音色、旋律、音の重なりなどの特徴や音楽の縦と横との関係を捉えて音楽をつくったり表現したりする学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりや器楽の学習活動に取り組もうとしている。(づ) (器)</p>

<p>楽をつくっている。(づ)</p> <p>⑤[知] 曲想と音色、旋律などとの関わりについて気付いている。(器)</p> <p>⑥[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて旋律楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。(器)</p> <p>⑦[技] 互いの楽器の音や他の旋律を聴いて、音を合わせて演奏している。(器)</p>	<p>[思]③音色、旋律、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器)</p>	
---	--	--

6 題材の指導計画と評価計画

8 時間扱い

時	○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ T「教師の発問や価値付け」	知 技	思	態
<p>&lt;第一次のねらい&gt;打楽器の音色や響きを聴き比べたり、それらの組合せを試したりしながら、そのよさや面白さに気付き、音楽の縦と横との関係などの仕組みを用いてまとまりを意識した音楽をつくる。</p>					
1	<p>○打楽器の音色や響き方を試しながら、素材や音の出し方との関わりについて気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『打楽器の音楽』で、15種類の楽器を使うことや、新しく学ぶ楽器の音の出し方を知る。</li> <li>打楽器の音色や響きと素材との関係に着目しながら、いろいろな音の出し方を試す。</li> <li>フレームドラム、トライアングル、クラベスの音を聴いて、音色や響きについて聴き取ったことを伝え合う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>3、4人のグループで、3種類の素材の楽器をそれぞれ選び、音を出す。</li> <li>聴き取った楽器の音色と響きの特徴についてグループで相談し、一人一台端末上の表に表す。</li> </ul>	<p>◇サークルに楽器を配置し、順番に全ての楽器を試せる場を設定する。</p> <p>◇鉄琴、グロッケン、木琴は、使うマレットによって音色が変わることを押さえる。</p> <p>◇「皮がはってある楽器」「金属でできている楽器」「木でできている楽器」の素材に着目して聴き取れるよう、3つの楽器を提示する。</p> <p>T 「『皮がはってある楽器』『金属でできている楽器』『木でできている楽器』の音色の違いに気を付けて聴きましょう」</p> <p>◇一人一台端末上に音色や響きの特徴によって分類できる表をおき、個々の考えを出し合いながら操作できるようにする。</p> <p>(視点2-①)</p>	① [知] 発言・記述		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとの表を見合い、楽器の音色と響きの特徴について気付いたことを発表する。</li> </ul> <p>○即興的に音を組み合わせながら音楽づくりの発想を得たり音楽をつくったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで音の出し方を試しながら、㊶～㊸のカードの図形に合う打楽器を選ぶ。</li> <li>カードや楽器を組み合わせ、様々な音の重なり方を試す。</li> <li>本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。</li> </ul>	<p>◇全てのグループの表を一人一台端末で見て比較できるようにする。 (視点2-①)</p> <p>◇楽器の音色や響きのよさを生かして図形と組み合わせているグループの例を紹介し、価値付けるようにする。</p>	<p>② 技聴取・観察</p>	<p>① 発言・聴取・記述</p>
<p>2</p>	<p>○音のつなげ方や重ね方による響きの違いに気づき、グループでの音楽づくりの見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全員でコンガ、トライアングル、クラベスを使った「始め」「中」「終わり」の10小節の音楽について考える。</li> <li>図形カードをつなげたり重ねたりして試し、10小節の音楽をつくる。</li> <li>つくった音楽を代表児童が演奏し、つなげ方、重ね方について気付いたこと、感じたことを発表する。</li> </ul> <p>○どのような『打楽器の音楽』をつくるかについて、思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで使う楽器について相談し、図形カードと楽器の組合せを試す。</li> <li>グループで使う3つの楽器を選ぶ。</li> <li>図形カードを操作しながらいろいろなカードのつなげ方や重ね方を試し、10小節の音楽をつくる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>いくつかのグループが中間発表をし、グループの考えを伝え合う。</li> </ul>	<p>◇図形カードと3つの楽器の音色の特徴との関係を問いかけながら、次にグループで楽器を選ぶ際の参考になるようにする。</p> <p>◇一つの音色を生かすために一人ずつ演奏する部分と、重なった響きを感じられるように、重ねて演奏する部分をつくることを押さえ、つなげ方や重ね方の例を示す。</p> <p>◇図形と楽器の音の特徴の組合せを表した表を基に、音楽の縦と横との関係を意識してつくることができるようにする。</p> <p>◇一人一台端末を活用し、図形カードを操作しながらいろいろな構成を試すようにする。掲示してある音の重ね方ヒントを参考にできることを伝える。(視点2-①)</p> <p>◇発表するグループの構成図を提示し、楽器の組合せや、「リレーでつなげる」「重ねる」「呼びかけとこたえ」などの構成について工夫</p>	<p>③ 知発言・記述</p>	



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。</li> </ul>	<p>したことを視覚的に捉えられるようにする。 (視点 2-①)</p>			
<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽器の音色や響き、音の重なり、音楽の縦と横との関係を生かし、いろいろな音の組合せを試しながら、まとまりを意識した音楽をつくる。</li> <li>・思いや意図に合った表現になるように構成や音の出し方を確認したり、工夫したりし、まとまりを意識した音楽をつくる。</li> <li>・つくった音楽を発表して聴き合う。</li> <li>・発表したグループの音楽について、気付いたことや感じたことを伝え合う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽づくりの学習を振り返り、合奏の学習への見通しをもつ。</li> <li>・ワークシートに学習の振り返りをまとめる。</li> </ul>	<p>◇考えた構成で、全ての楽器の音が響いてきこえるか問い掛け、児童が互いに聴き合って音の出し方を工夫できるようにする。</p> <p>◇発表するグループの構成図を電子黒板に映し、楽器の組合せや構成について工夫したことを視覚的に捉えられるようにする。 (視点 2-①)</p> <p>◇第1時からのワークシートの記録を見ながら学習したことを振り返り、楽器の音色や響き、音の重なり、音楽の縦と横との関わりと演奏の仕方との関わりについて押さえ、合奏の学習へつなげられるようにする。 (視点 3-②)</p> <p>T「一つ一つの楽器の音色や響きのよさ、その音の出し方をみんなで考えました。そして、それらの楽器を重ねるとさらに楽しい音が生まれることも感じ取りましたね。次は楽器の音色や響きを大切にしながら旋律を演奏し、重ねていく合奏の学習に取り組みます」</p>	<p>④ 技 聴 取 ・ 記 述</p>	<p>② 発 言 ・ 聴 取 ・ 記 述</p>	
<p>&lt;第二次のねらい&gt;曲想と旋律などの特徴との関わりを捉えながら、音色や響きに気を付けて演奏する。</p>					
<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○器楽『茶色の小びん』の学習の見通しをもつ。</li> <li>・合奏の音源を聴き、気付いたことや感じたことを伝え合う。</li> </ul>	<p>◇合奏の音源は、音楽作成アプリケーションで作成し、児童がパートの特徴に合う楽器を自由にイメージできるようにする。 (視点 1-①)</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜を見ながら合奏の音源を聴く。</li> <li>・学習の進め方を知る。</li> </ul> <p>○主な旋律の特徴を捉えて、曲想との関わりに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①パート（主な旋律）をリズム打ちしたり階名唱したりする。</li> <li>・①パートの旋律やリズムの特徴について気付いたことを伝え合い、ワークシートの楽譜に書き込む。</li> <li>・①パートを鍵盤ハーモニカで演奏する。</li> </ul> <p>・本時の学習の振り返りをワークシートに記入する。</p>	<p>◇拡大楽譜で4つのパートに分かれていること、主な旋律が①パートであることを確認できるようにする。</p> <p>◇学習活動を思考ツール（ステップチャート）で示し、児童が見通しをもちながら学習できるようにする。</p> <p>◇体や手を動かしながらシンコペーションのリズムや旋律の跳躍などの特徴を捉え、拡大楽譜に記入し共有できるようにする。</p> <p>◇①パートを鍵盤ハーモニカで演奏する理由（弾む音も長い音も演奏できる。全員が演奏できるようにする。）を児童と共有できるようにする。</p> <p>◇「せんりつ（音程・リズム）」「運指」「タンギング」などの基本的な演奏の仕方を既習の掲示物で確認できるようにする。</p> <p>◇振り返りの内容は、授業後教師が読み取り、次時の学習につなげるようにする。 （視点1-②）</p>	<p>⑤ 知 発 言 ・ 記 述</p>		
<p>〈 A と判断される児童の状況 〉</p> <p>知・主な旋律のリズム、旋律の特徴と鍵盤ハーモニカの演奏の仕方や曲想とを十分に関わらせて発言したり、ワークシートに記入したりしている。</p> <p>〈 C と判断されそうな状況への手立て 〉</p> <p>知・シンコペーションのリズムなどと曲想との関係に気が見られない児童には、階名唱しながらリズム打ちしたり体を動かしたり、教師の範奏を聴くなどして気付きを促す。</p>					
5	<p>○副次的な旋律、和音、低音の旋律やリズムの特徴に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返り、①パートを鍵盤ハーモニカで演奏する。</li> <li>・楽譜を見て、②（かざりの旋律）、③（和音）、④（低音）各パートの旋律やリズムの特徴について気付いたことを伝え合う。</li> </ul>	<p>◇各パートの旋律やリズムの特徴についての発言を整理して拡大楽譜に記入し、共有できるようにする。</p>			



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・②③④パートの順番に聴き、それぞれの旋律やリズムの特徴を捉える。</li> <li>・各パートの特徴に合った楽器について話し合う。</li> </ul> <p>○各パートの特徴と楽器の音色と曲想との関わりについて気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな楽器を試し、演奏したいパートや楽器を選び、ワークシートに書き入れる。</li> </ul>	<p>◇児童の発言から出た楽器を、教師が模範演奏し、各パートの特徴に合っているかどうかを児童が考えられるようにする。</p> <p>◇パートの特徴に合った楽器について、児童が発言した内容を板書することで、児童が理由や根拠をもって選ぶことができるようにする。 (視点1-①)</p> <p>T「パートの特徴と楽器の音色について考えながら、どのパートをどの楽器で演奏したいか、理由も分かるようにワークシートに書きましょう」</p>	<p>⑤ 知 言 ・ 記 述</p>				
<p>〈 Aと判断される児童の状況 〉</p> <p><b>知</b>・副次的な旋律、和音、低音の旋律、リズムの特徴、楽器の音色や響きなどと曲想とを十分に関わらせて、自分が演奏したいパートや楽器を選び、発言したりワークシートに記入したりしている。</p> <p>〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉</p> <p><b>知</b>・副次的な旋律、和音、低音の特徴をワークシートに記入することができていない児童には、拡大楽譜に書かれた特徴を自分の楽譜に書き入れるよう伝え、教師が音符を指しながら共にリズム打ちしたり歌ったりして、リズムや旋律の特徴が分かるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の特徴や楽器の音色から自分のパートや楽器を選ぶことができない児童には、旋律の特徴を伝えながら教師が範奏し、演奏したいと思う楽器や演奏できそうな楽器について対話しながら決められるようにする。</li> </ul>		<p>6</p>		<p>○各パートの楽器の音色や響き、旋律の特徴を捉えた演奏の仕方を工夫し、演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つのパートに分かれ、パート音源を聴きながら自分のパートの旋律やリズムを確認する。</li> <li>・同じ楽器、同じパートごとのグループに分かれ、グループビンゴカードの内容に気を付けながら演奏し、教え合う。</li> <li>・グループで達成できたビンゴカードの内容にシールを貼ったり、新たにもった課題について書き加えたりする。</li> </ul>	<p>◇グループは前時に希望した楽器の中で、教師が決めておく。</p> <p>◇児童が一人一台端末で音源を聴くことができるように用意する。</p> <p>◇前時で学習した基本的な演奏の仕方や、各パートの特徴に関わる内容を書き入れたビンゴカードを基に、演奏の仕方を工夫しながら技能を高められるように助言する。 (視点2-②)</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループの演奏を聴き合う。</li> <li>個人ビンゴカードに自分の課題や大事だと思う内容を書き入れる。</li> <li>本時の学習の振り返りをワークシートに記入する。</li> </ul>	<p>◇振り返りの内容は授業後教師が読み取り、次時の学習につなげるようにする。 (視点1-②)</p>	<p>⑥ 技 聴 取 ・ 記 述</p>		
<p>〈 Aと判断される児童の状況 〉</p> <p>【技】楽器の演奏の仕方と音色や響きの特徴を十分に生かした技能を身に付け、自分のパートの旋律を演奏している。</p> <p>【思】自分が選んだ楽器の音色や響き、旋律などの特徴を捉えた演奏の仕方について、特徴を生かしてどのように演奏したらよいか考えたことをビンゴカードに詳しく記入している。</p> <p>〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉</p> <p>【技】担当するパートの旋律の特徴に気を付けて演奏できていない児童には、部分的に取り出して教師と一緒に階名唱したり、練習したりして、確実に演奏できる部分をもてるようにする。</p> <p>【思】パートの特徴を捉えた演奏の仕方についてビンゴカードに記入していない児童には、全体で共有した板書の内容をすぐに書き入れたり、演奏後にできていることを書いたりするよう促す。</p>					
<p>&lt;第三次のねらい&gt;パートの特徴や音楽の縦と横との関係と曲想との関わりを捉えた演奏の仕方を工夫し、音を合わせて演奏する。</p>					
<p>7 本 時</p>	<p>○パートを重ねてどのように演奏するか、自分の課題をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4つのパートを重ねて全体を演奏する。</li> <li>クラスで半分に分かれ、互いの演奏を聴き合う。</li> <li>演奏して気付いたこと、感じたことを発表し合い、全体で共有する。</li> <li>自分の課題を個人のビンゴカードに書き入れる。</li> </ul> <p>○パートの旋律の特徴、音楽の縦と横との関係を聴き取り、どのように演奏するか考え表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のビンゴカードの課題を達成できるよう、友達と協力しながら演奏する。</li> </ul>	<p>◇合奏のグループは、前時までの同じパート同じ楽器のグループを基に教師が決めておく。</p> <p>◇児童の発言から課題となることを取り上げ、拡大楽譜に書き込む。</p> <p>◇書き入れていない児童には、拡大楽譜の板書を参考にして、自分の課題をもつことができるよう助言する。 (視点1-①)</p> <p>◇4つのパートが集まった合奏グループで聴き合ったりアドバイスし合ったりしながら演奏する場を設ける。 (視点2-①)</p> <p>◇互いにビンゴカードの課題に向かい協力して演奏すること、達成したらシールを貼ること、最後に</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つのパートを重ねて全体を通して演奏する。</li> <li>・ビンゴカードにシールを貼ったり、課題を足したりする。</li> <li>・本時の学習の振り返りをワークシートに記入する。</li> </ul>	<p>全体で演奏しその成果を聴き合うことを確認する。</p> <p>(視点2-②)</p> <p>◇課題が達成できていない場合は、次時や今後の学習でできるようになればよいことを伝える。</p> <p>(視点1-②)</p> <p>★〈Aと判断される児童の状況〉〈Cと判断されそうな状況への手立て〉は本時案参照</p>		 <p>③ 発言・聴取・記述</p>	
8	<p>○互いの楽器の音や他のパートの旋律を聴いて、音を合わせて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2種類の範奏動画を見て、よりよい演奏にするにはどうしたらよいか、考える。</li> <li>・前時に書いたワークシートやビンゴカードを見て学習を振り返り、動画を見て新たにもった課題をビンゴカードに書き足す。</li> <li>・ビンゴカードの課題に気を付けて、4つのパートを重ねて全体を通して演奏する。</li> <li>・合奏して気付いたことや感じ取ったことを伝え合う。</li> <li>・これまでの学習を振り返り、学んだことをワークシートに記入し、全体で伝え合う。</li> <li>・吹奏楽の『茶色の小びん』の動画を鑑賞し、その音色や響き、リズム、音の重なりなどのよさを感じ取る。</li> </ul>	<p>◇旋律の特徴を生かした演奏とそうでない演奏の2種類の合奏の動画を用意し、児童がさらによりよい表現を目指して具体的な演奏の仕方を考えられるようにする。</p> <p>◇ビンゴカードの達成できていない課題について、互いに見合いながら演奏するよう声掛けする。</p> <p>◇児童の考えを聞きながら、パートの音量を調整するなどしてよりよい合奏を目指せるようにする。</p> <p>(視点2-②)</p> <p>◇児童の発言から学んだことを価値付けし、今後の学習につなげられるようにする。(視点3-②)</p> <p>◇豊島区の大学生の演奏であることを伝え、いろいろな表現に児童が触れる機会となるようにする。</p> <p>(視点3-②)</p> <p>T「豊島区にある東京音楽大学の学生さんが演奏した『茶色の小びん』の映像を見ましょう。聴いて、見て、たくさんの思いがあふれてくると思います。思ったこと、感じたこと、後で聞かせてください。」</p>	<p>⑦ 技聴取</p>	 <p>① 行動観察・発言・記述</p>	

	<p>〈 Aと判断される児童の状況 〉</p> <p><b>技</b>・パートの旋律や音楽の縦と横との関係を捉えた演奏の仕方についてビンゴカードに書いた内容を生かし、曲想にふさわしい音色で、互いの楽器の音や他の旋律を聴きながら音を合わせて演奏している。</p> <p><b>態</b>・学習のねらいに即して、教師や友達の考えなども捉えながら、自分の考えたことをワークシートに多く記入している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の音色や音の重なりを生かして音楽をつくったり、曲想や曲の特徴を捉えて表現したりする学習を楽しみ、友達と話したり演奏を聴き合ったりする中で気付いたことや感じたことを自分の表現に取り入れながら活動している。</li> </ul> <p>〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉</p> <p><b>技</b>・他のパートと合わせて演奏することができていない児童には、技能面でつまづいているところを確認し、教師が支援しながら他のパートと重ねて演奏できるところを増やせるようにする。</p> <p><b>態</b>・活動場面での発言やワークシートへの記録、振り返りなどが書けていない児童には、様子を観察しながら、楽器の音や響き方、演奏の仕方などの学習に興味をもっている場面が充実するように声掛けしたり支援したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に考えを伝えたり演奏を聴き合ったりして一緒に活動することができない児童には、やろうとしていること、できそうなことを見つけ、粘り強く声掛けし、友達と活動できる時間を増やすことができるようにする。</li> </ul>			
--	---	--	--	--

**7 本時の展開**

**7 時間目**

(1) 本時のねらい

音色、旋律、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。

(2) 本時の展開

○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ ◆ 評価規準〈評価方法〉
<p>○前時までの学習内容を振り返り、本時のめあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習をステップチャートで振り返り、本時のめあてを確認する。</li> </ul>	<p>◇前時までの学習内容を振り返ることができるような拡大楽譜や板書、掲示物を準備しておく。</p> <p>◇ワークシートを事前に確認し、前時の学習を振り返りながら本時のめあてを共有できるようにする。 (視点1-②)</p>
<p><b>せんりつのとくちょうを生かして、パートを重ねてえんそうしよう</b></p>	
<p>○パートを重ねてどのように演奏するか、自分の課題をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つのパートを重ねて全体を演奏する。</li> <li>・クラスで半分に分かれ、互いの演奏を聴き合う。</li> <li>・演奏して気付いたこと、感じたことを発表し合い、全体で共有する。</li> </ul>	<p>◇合奏のグループは、前時までの同じパート同じ楽器のグループを基に教師が決めておく。</p> <p>◇児童の発言から課題となることを取り上げ、拡大楽譜に書き込む。</p>

- ・自分の課題を個人のビンゴカードに書き入れる。

**【予想されるビンゴカードの内容】**

- ・□パートをきいて合わせる。
- ・周りの音をきく。
- ・ドレミ、レドド、ドドドを合わせる。
- ・休ふを意しきする。

○パートの旋律の特徴、音楽の縦と横との関係を聴き取り、どのように演奏するか考え表現を工夫する。

- ・自分のビンゴカードの課題を達成できるよう、友達と協力しながら演奏する。

- ・4つのパートを重ねて全体を通して演奏する。

- ・ビンゴカードにシールを貼ったり課題を足したりする。

- ・本時の学習の振り返りをワークシートに記入する。

◇書き入れていない児童には、拡大楽譜の板書を参考にして、自分の課題をもつことができるよう助言する。  
(視点1-①)

◇4つのパートが集まった合奏グループで聴き合ったりアドバイスし合ったりしながら演奏する場を設ける。  
(視点2-①)

◇互いにビンゴカードの課題に向かい協力して演奏すること、達成したらシールを貼ること、最後に全体で演奏しその成果を聴き合うことを確認する。  
(視点2-②)

◇課題を達成できていない場合は、次時や今後の学習でできるようになればよいことを伝える。  
(視点1-②)

◆音色、旋律、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。思・判・表  
③〈発言内容・演奏聴取・ワークシートの記述内容〉

〈Aと判断される児童の状況〉

- ・自分が選んだ楽器や他のパートの音色や響き、旋律などの特徴や音楽の縦と横との関係を捉えた演奏の仕方について、どのように演奏したいか考えたことを言葉や演奏で表現したり、ビンゴカードに詳しく記入したりしている。

〈Cと判断されそうな状況への手立て〉

- ・パートを重ねてどのように演奏したいか、自分の課題を友達に伝えたりビンゴカードに記入したりできない児童には、うまく演奏できない部分を聞き、その理由を他のパートと関わらせながら考えられるように助言したり支援したりする。

助言者の言葉

今回、私が豊島区の先生方に願ったこと・・・①スペシャルな先生にしか出来ない技を見せるような授業はしない。②スペシャルに鍛えられた子供たちにしかできない授業はしない。③ビフォア・アフターが見える1時間を。④授業は子供たちのもの。常に子供目線に立った愛情深い研究を。⑤完璧ではなく、次への課題が見える授業こそが学びを深める。そこから皆でまた学び続けよう・・・まさに、そのような研究を続けてくださった豊島区の先生方です。子供たち、幸せだなあ。